

◎日本語訳

【文教記者 蔡佩珈 中時新聞網報道】 2023-1-12

絵画を通して日台文化交流 士林小学校、中学校との絆再び

台北市士林区役所は2019年に日本の富山県射水市と友好協力協定の締結を結んだ。その後新型コロナウイルスの影響で、現地での交流ができなくなり、士林国民小中学校と射水市内の小中学校はオンラインでの交流を実施している。今年は「日台・小中学生絵画展」を通して、友好関係を続けている。士林小の呂（りょ）さんと林（りん）さんは「自分の作品が展示され、また日本人に台湾の文化を知ってもらうことができ嬉しい。」と話した。

「日台・小中学生絵画展」は今年の1月12日から2月12日まで士林公民館で開催され、展示しているのは士林国民中、士林国民小学校の2校、日本から富山県射水市の小杉中、新湊中、放生津小、金山小学校の4校。

日本の小・中学生たちは地元の風景や名所をテーマに描く場合が多く、台湾の学生は夜市や祭りなどの生活文化を描いている。士林小の林さんは台湾のお寺のイベントを描き、呂さんはおばあさんの湯圓（たんゆえん）団子をテーマに描いた。授業のない時間と朝自習の時間を利用して、構図から草稿、そして彩色まで一歩ずつ完成した。

士林小の林さんは「お寺の活動写真を参考にして人々が獅子舞を踊る様子を描いたが、獅子舞は鱗の描き方が複雑で、多くの時間を描けた。」と話した。呂さんは「特に先生にグラデーションの技法を学び、おいしそうな湯圓（たんゆえん）団子の作品が描けた。」と話した。学生たちは「自分の作品が飾られてとてもうれしい。必ず両親にも見てもらいたい。」と話した。

今回の日台・小中学生絵画展は士林区と射水市の今までの3年間のオンライン交流から延長した活動である。2つの都市の交流を促進する縁の下の力持ちは、区役所で20年以上の国際ボランティアを務めている林 秀宗（りん しゅうそう）氏である。

林氏は「夏野元志射水市長は2019年に台湾に訪問した時、陽明山（ようめいざん）の米軍クラブなど台北の文化的景観が美しく、その場で士林区との友好協力協定を結ぶと決めたと話した。2市の交流をより長期的にするために、まずは教育の分野から始めて、日台の小中学校の交流を望んでいる。」と話した。

しかし、林氏によると、「小学生の言語力はまだあまり上手ではないため、子どもたちは当初少し消極的だったが、「今やらなかったら、明日は後悔する。」という言葉で射水市を説得し、士林小と士林中学校の射水市内の学校との交流が実現した。また、今年はたくさんの方の力で、さらに具体的な交流として絵画展を開催することができた。」と話した。

また、士林小中学校の国際交流には、士林区にある東呉大学の日本語学科の学生も参加し、翻訳の協力をしている。士林小の呉 明郁（ご めいいく）校長は「大学生が翻訳や通訳で、オンラインでの交流をサポートし、さらに小学生のボディランゲージと演技を通して日本の学生と交流して、言語の壁が徐々になくなっていった。今年は実際の絵画展が開催され、子供自身が学んだことを活かして描いた。彼らにとって忘れられない成長の経験になると信じている。」と話した。

士林中の林 凱瓊（りん かいぎょう）校長は「3年前からの絵本、手紙の交換、そしてオンラインでの交流も実施した。オンライン交流より今回の絵画展にもっと温かな交流の雰囲気を感じられ、学生たちも楽しんでおり、日本の学生たちの作品を通して台湾と違う文化をみることができ、さらに国際的視野広がった。」と話した。